

第3学年 国語科 学習指導案

日 時 2025 年 9 月 2 日 (火)
第3校時 10:45～11:35
対 象 第3学年D組 33名
会 場 3 年 D 組 教 室

1 単元名

慣用句・ことわざ・故事成語 「国語3」(光村図書)

2 単元の目標

- 慣用句やことわざ、故事成語の意味や由来を理解し、文脈に応じて適切に読み取り、使い分けができる。
- 表現がもつ文化的背景や教訓に関心をもち、自分の表現をより豊かにしようとする態度を育てる。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 慣用句を使って短文を作ったり、ことわざ・故事成語の意味や使い方を調べたりしている。	① 慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方を積極的に調べ、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。

4 単元指導計画(全1時間扱い)

時	目標	学習内容・学習活動	評価
1 本時	○慣用句やことわざ、故事成語について理解を深め、語句の意味や使い方を調べたり、語句を用いて短文を作ったりする。	・慣用句・ことわざ・故事成語とは何かを理解する。 ・初めて知った語句の意味や使い方を調べる。 ・練習問題に取り組む。 ・慣用句・ことわざ・故事成語を使って短文を作る。	ア-①【プリント・観察】 ウ-①【プリント・観察】

5 生徒が主体的に学び続けるための工夫(個別最適な学び)





- 自分の理解度に合った問題を選択して取り組ませる。(キュービナ)
 - 自分の知らない語句はその都度、タブレット端末で調べられるようにさせる。
 - 自分で好きな語句を選択させ、その語句を使って短文を作る。作る短文の数も自分で決めさせる。
- ことわざであればテーマ(努力系・友情系・失敗から学ぶ系)、故事成語であれば分野(歴史・戦略・人物エピソードなど)を具体的に示し、短文作成のヒントとさせる。

6 本時の指導（全1時間中の1時間目）

（1）本時の目標

慣用句やことわざ、故事成語の意味や由来を理解し、文脈に応じて適切に読み取り、使い分けることができる。また、それらの表現がもつ文化的背景や教訓に関心を持ち、自分の表現をより豊かにしようとする態度を育てる。

（2）本時の展開

	○学習活動 ◎主体的に学び続けるための視点	□指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	<p>○日常生活を振り返り、慣用句・ことわざ・故事成語について知っている語を挙げる。</p> <p>○本時の目標を確認する。</p>	<p>□「腕を上げる」「腕を磨く」「腕が鳴る」を例に、本来の語句の意味と慣用句としての意味を比較させる。</p>
	<p>慣用句やことわざ、故事成語について理解を深め、語句の意味や使い方を調べたり、語句を用いて短文を作ったりする。</p>	
展開 40分	<p>○教科書P122、P123を読み、慣用句・ことわざ・故事成語について理解する。</p> <p>○キュビナの問題に取り組む。</p> <p>・初めて知った語句は、意味や使い方をタブレット端末で調べてプリントに書き込む。</p> <p>○ワークP91の9「短文作り」の問題に取り組む。</p>	<p>□自分の理解度に合った問題を選択させる。</p> <p>□間違いの多かった語句、注意すべき語句（本来の意味と異なるとらえられやすい語句）については説明を加える。</p> <p>◆アー①（プリント・観察）</p> <p>□キュビナの取り組み状況を教師が随時把握する。（進んでいない生徒は支援する。）</p> <p>□短文を作るときは、必要に応じて二文に分けてもよいことを伝える。</p>
	<p>個別最適な学びを取り入れた学習活動</p> <p>◎本時に学習した語句の中から好きな語句を選択し、その語句を使って短文を作る。作る短文の数も自分で決める。</p> <p>○作成した短文を班で紹介しあう。</p>	<p>□作る短文の数は自分で決めさせる。</p> <p>◆ウー①（プリント・観察）</p>
まとめ 5分	<p>○本時の振り返りを行う。</p>	<p>□日常生活の言葉を振り返って新たに気づいたことや、本時の学習を今後どのように生かしたいかを書かせる。</p>